

麿坂皇子

麿坂皇子(かごさかのみこ/かごさかのおうじ、生年不詳 - 神功皇后元年 2 月)

記紀に伝わる古代日本の皇族。

『日本書紀』では「麿坂皇子」や「麿坂王」、『古事記』では「香坂王」と表記される。

第 14 代仲哀天皇皇子で、応神天皇との間での対立伝承で知られる。

仲哀天皇

仲哀天皇(ちゅうあいてんのう、成務天皇 18 年? - 仲哀天皇 9 年 2 月 6 日)は、『古事記』『日本書紀』に記される第 14 代天皇(在位:仲哀天皇元年 1 月 11 日 - 同 9 年 2 月 6 日)。日本武尊命を父に持ち、皇后は三韓征伐を行った神功皇后であり、応神天皇の父である。足仲彦天皇(たらしなかつひこのすめらみこと)、帯中日子天皇(古事記)。「タラシヒコ」という称号は 12 代景行、13 代成務、14 代仲哀の 3 天皇が持ち、ずっと下がって 7 世紀前半に在位したことの確実な 34 代舒明、35 代皇極の両天皇も同じ称号を持つことから、タラシヒコの称号は 7 世紀前半のものであり、12、13、14 代の称号は後世の造作ということになり、仲哀天皇の実在性には疑問が出されている(仲哀天皇架空説)。

仲哀天皇の「タラシナカツヒコ(足仲彦・帯中日子)」という和風諡号から尊称の「タラシ」「ヒコ」を除くと、ナカツという名が残るが、これは抽象名詞であって固有名詞とは考えづらい(中大兄皇子のように、通常は普通名詞的な別名に使われる)。つまり、仲哀天皇の和風諡号は実名を元にした物ではなく、抽象的な普通名詞と言う事になる。さらに『日本書紀』では父の日本武尊の死後 36 年も経ってから生まれたことになる不自然さもあり、**仲哀天皇架空説を支持する意見は少なくない。**

(事績)

『日本書紀』によれば叔父の成務天皇に嗣子が無く、成務天皇 48 年 3 月 1 日に 31 歳で立太子。13 年の皇太子期間を経て、仲哀天皇元年 1 月即位。白鳥となって天に昇った父日本武尊(景行天皇 43 年死去)をしのいで、諸国に白鳥を献じることを命じたが、異母弟の蘆髪蒲見別王が越国の献じた白鳥を奪ったため誅殺したとある。仲哀天皇 2 年 1 月 11 日、仲哀天皇は氣長足姫尊(成務天皇 40 年誕生)を皇后(神功皇后)とする。

8 年熊襲討伐のため神功皇后とともに筑紫に赴いた仲哀天皇は、神懸りした神功皇后から神のお告げを受けた。それは西海の宝の国(新羅のこと)を授けるという神託であった。しかし、仲哀天皇は、これを信じず神を非難した。そのため**神の怒りに触れ、仲哀天皇は翌年 2 月、急に崩じてしまった。**遺体は武内宿禰により海路穴門(穴戸海峡、現在の下関海峡)を通過して穴戸豊浦宮で殯された。『天書紀』では熊襲の矢が当たったという。『古事記』に「凡そ帯中日津子天皇の御年、五十二歳。壬戌の年の六月十一日に崩りましき」。『日本書紀』にも 52 歳とするが、これから逆算すると、**天皇は父日本武尊の薨後 36 年目に生まれたこととなり、矛盾する。**